

# 「インクルーシブな学校運営」通信 第11号

カリキュラム・マネージャー

## 「気持ちの伝え方」を学ぶ =オンライン共同学習=

12月19日(金)本年度3回目となる「オンライン共同学習」が更農1年A組14名と中高養1年8名(過去2回も参加)により行われました。

これまでの授業は更農側がMTとなって進められましたが、今回は新たな取組として中高養側がMTを務めました。

授業では、日常の具体的な場面での会話や行動が取り上げられ、グループでの話し合いやオンラインの意見交換などを通して、適切な気持ちの伝え方や行動の仕方について学びました。

生徒からは「自分と違う意見が出て面白かった。」「中高養の人たちの考え方が少し分かったような気がする。」「(以上、更農)」「とても勉強になった気がする。来年もありますか?」「中高養ではできないような授業ができて嬉しかった。」「(以上、中高養)」などの感想が聞かれました。

指導目標

中高養：他者に適切な言葉で自分の気持ちを伝えることができる。【「自立活動」心理的な安定(2)】

更農：伝え方や聞き方について考え、様々な表現方法があることを知ることができる。【学校設定科目「カルチベーション」思考・判断・表現】



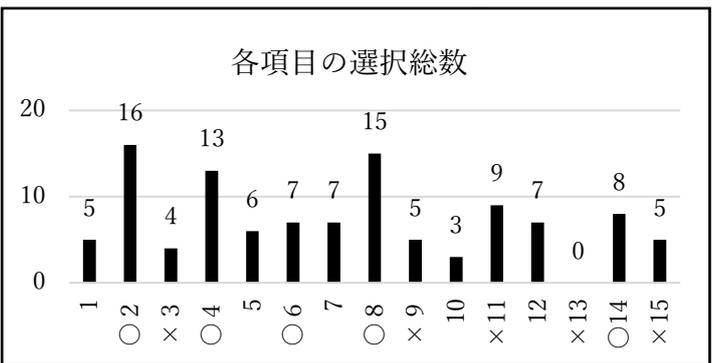
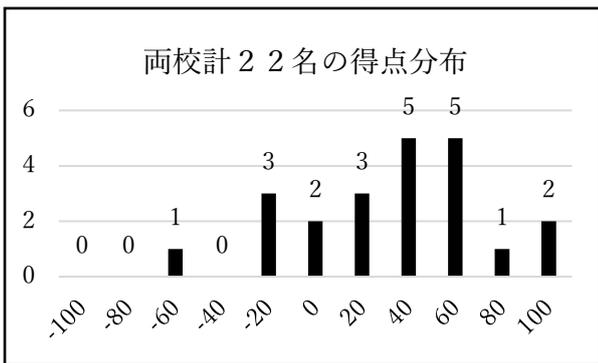
更農の様子をスクリーンで確認



中高養のグループ交流



中高養の発表



【得点の算出方法】

(2, 4, 6, 8, 14を選んだ数) × (+20) = A  
 (3, 9, 11, 13, 15を選んだ数) × (-20) = B  
 A+B=得点

【判断基準】

～20 ほとんど効果がない 20～40 やや効果がある  
 40～60 効果がある 60～80 かなり効果がある 80～100 きわめて効果がある

<出典>

2010 北海道教育大学附属属釧路中学校研究紀要  
 2024 北海道教育大学「子どもの評価を媒介にした研修  
 修転移アセスメントシートの開発への挑戦」

※ 各項目は裏面に掲載しています。

## 異学年で「合作の書」 更農書道科

12月19日（金）更農1年A組14名の書道科の授業に中高養3年生6名が参加しました。

授業は9日（火）に行われたB組と同じ内容で、各グループに中高養の生徒が2名ずつ加わり、更農生から題材の特徴や筆の使い方などについて説明を受けた後、「合作の書」の作成に取り組みました。「合作の書」は、更農生が予め用意した6文字の見本を参考に、1文字ずつ分担して作成するもので、最後に自分の名前を書いて完成となります。正味70分の活動時間でしたが、互いにコミュニケーションをとりながら制作に取り組んでいました。

生徒からは「ちがう学校の人との交流も悪くはないと思いました。」「次あったらもっとしっかり説明したい。」「教えることが難しかった。」（以上、更農）「とても勉強になりました。また、行きたいです。」「次は更別の人が中札内に来てほしい。」（以上、中高養）などの感想が聞かれました。

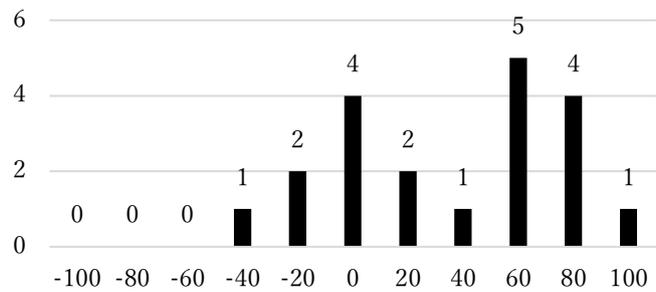


### 授業アンケート

● 授業を受けて自分の気持ちに似ているものを必ず5つ選んで、その番号を記入してください。

1. あまりよくわからなかった。
2. よく考えることができた。
3. ますます勉強がいやになった。
4. 新しいことがわかってうれしかった。
5. かんたんすぎて、はり合いがなかった。
6. もっとこの授業がつづけばよかった。
7. これという感じはのこっていない。
8. とても楽しかった。
9. 家で勉強した方がよくわかった。
10. つらかったが、ためになったような気がする。
11. とても時間が長く感じられた。
12. 思うように考えたり活動したりすることができなかった。
13. おさえつけられるような気持ちだった。
14. 勉強のしがいがあるように思われた。
15. だらけた気持ちですごした。

### 両校計20名の得点分布



### 各項目の選択総数

